

九州山口シニア

介護問題学習会 看護問題への認識の向上と共有化を図る

森峰 茂樹 通信員

JAM九州・山口シニアクラブは、JAMシニアクラブの重点課題の一つ、「介護保険制度」について幹事会メンバーの認識の向上と共通化が必要と判断し、4月19日、その学習会を福岡県篠栗町クリエイト篠栗で開いた。

講師には福岡県市町村福祉協会の藤川七郎事務局長を招き、幹事会9人とJAM九州・山口金村書記長と宮本シニアクラブ担当が参加した。藤川七郎事務局長は、介護保険制度の入口論からその仕組みと内容について、地域包括ケアシステムの重要性など分りやすく説明された。

藤川氏は福岡県退職職者連合が取り組んでいる健康寿命延進の活動や介護保険制度の充実を求める統一要求を県下の市町村に行っている活動も紹介された。

この統一要求の取り組みでは、県内7つの地域協議会の退職者組織が自治体毎に要求を行い昨年度は県下60市町村の中で46市村から具体的な回答を得ている。

この学習会で、介護問題への認識の向上と共有化を図る目的は前進したと判断される。今後はそれぞれの居住区で「わが町」の地域包括ケアシステムに関心を強め、地域の退職者連合の活動への参加が問われている。

